

人材開発部門 活動記録

令和4年度 看護部長・副学校長研修

2022年4月21日

看護部長・副学校長研修が4月21日に本部で開かれ、看護部長82人（うち新任13）、副学校長6人（うち新任副学校長2）の88人がオンラインで参加した。

厚労省の習田由美子医政局看護課長が「看護の動向」と題して講義。「今後の新型コロナウイルス感染拡大に備えた看護職員確保」「看護師の特定行為に係る研修制度の概要・現状と推進」「医師の働き方改革を進めるためのタスクシフト／シェア推進の具体的な普及・推進策」「医療専門職支援人材（看護補助者・医師事務作業補助者）の活用を目的とした事業」を解説した。

全国済生会看護部長会と本部看護室が協働している3つのワーキンググループについて活動を報告。

水戸済生会総合病院の檜山千景看護部長が「特定行為研修など看護の動向に関するワーキング活動報告」、香川県済生会病院の松本久美恵看護部長が「タスクシフト、タスクシェアワーキンググループ活動報告」、唐津病院岩崎理佳看護部長が「看護補助者マニュアル改訂にともなうワーキング報告」を説明した。

午後は高輪心理臨床研究所主宰・岸良範氏が「メンタルヘルスとパワーハラスメント—豊かにはたらくために—」と題し講義。「人間関係を豊かにするためには、個々の事情の中で生きてきた人へのリスペクトから始まり、管理はひとりの人として『尊敬・尊重』することから始まる」と力説した。

受講者はハラスメントの事例をもとに「スタッフや部下への対応」「叱り方」のグループワークも実施した。



令和4年度 訪問看護ステーション管理者研修

2022年5月19日～20日

訪問看護ステーション管理者研修が5月19～20日に本部で開かれ、57人（うち新任11人）がオンラインで参加した。

初日は、炭谷茂理事長が「看護に関する済生会原論～歴史の転換期での済生会の基本的方向～」と題し講演。「ウィズコロナ・アフターコロナへと時代が変化している中で済生会は、地域包括ケアのトップリーダーとして総合的な医療・福祉サービスを提供していかなければならない」と訴えた。

日本訪問看護財団の佐藤美穂子常務理事は、会員向けに行なったコロナ対応の実態把握調査を説明。医師やケアマネジャー等との職種間による感染に対する認識の差、病院での面会制限から在宅医療に切り替えるがん末期患者の看取りが増加したなどが報告された。

翌日は、全国6ブロックの代表が活動報告や今後の課題を報告。山形訪問看護ステーションの平由美子氏（東北北海道）、三田訪問看護ステーションの坪むつみ氏（関東）、三条訪問看護ステーションの阿部育子氏（北信越）、茨木訪問看護ステーションの西森麻喜子氏（近畿）、今治訪問看護ステーションの西野憲子氏（中四国）、訪問看護ステーションせんだいの湯之前瑞穂氏（九州）が地域連携や人材育成の取り組み等を発表した。

午後は、新型コロナ策などをテーマにグループワークを実施した。



第47回 臨床研修指導医のためのワークショップ

2022年7月30日～31日

新型コロナで延期やオンライン開催となっていた全国済生会臨床研修指導医のためのワークショップが約3年ぶりに対面での開催を実現した。

第47回となる本ワークショップは令和4年7月30～31日の2日間にわたり今治病院主催で、大阪市のクロス・ウェーブ梅田の会場に19病院から27人が参加した。

松野剛院長（今治病院）が開催責任者となり、チーフタスクフォースの船崎俊一・川口総合病院循環器内科部長・リハ科部長のほか、本会病院から参加した7人のタスクフォースが受講者をサポート。事務局は今治病院のほか次回主催予定の長崎病院、次々回主催予定の水戸総合病院、本部職員が務めた。

全国で新型コロナの感染者数が急増する中、特別講師である医師臨床研修専門小委員会の塩出純二委員長（岡山済生会総合病院院長）や、同外部委員の小西靖彦先生（静岡県立総合病院院長）が病院でのコロナ対応のため、オンラインに変更、タスクフォースも1名が勤務先からの参加を余儀なくされるなど、コロナの影響による変更が相次いだが、主催病院である今治病院スタッフやタスクフォースの先生方の柔軟かつ適切な対応により、無事、開催することができた。

内容は、主なテーマとして、研修医が行なう研修プログラムの立案、目標設定、研修方法（方略）、評価等、指導に必要な知識と技術についてグループワークで学んだ。

また、今回からeラーニングによる事前学習も導入され、事前に内容の理解度を上げることも試みた。今後も効果的な導入を検討していきたい。

受講者からは「指導医として実践に活かせる多くのことを学べた」「適切で丁寧なタスクの先生のサポートがあり、理解を深めることができた」といった声が寄せられた。



令和4年度 済生会全国次世代指導者研修

2022年9月2日～3日

令和4年度済生会全国次世代指導者研修が9月2日～3日に本部主催で開催され、本会20病院から21人が参加した。

本研修は新型コロナウイルス影響により令和2年1月以来、約2年半ぶりの開催となった。

研修は、先行き不透明な環境下に組織の進む方向性を指し示す事ができるリーダーの育成目標とし、多様性の意義・活用、DISCアセスメントを活用したタイプごとのリーダーシップ、コーチング、ピープル・リーダーとしてチームを導くため必要なスキル、知識等について主にグループワーク形式で行われた。

また、済生会病院におけるリーダーシップの実践例として、「環境変化に対応し、組織改革を推進するリーダーシップ」をテーマとする特別講演が、済生会院長会会長 園田孝志（唐津病院院長）・同人材開発部会長 登谷大修（福井県済生会病院院長）の共同により行われた。

特別講演後には、済生会の現状、リーダーとしての心構え、組織改革の実践等について多くの質問があった。

参加者からは、「様々なタイプの人がいることを知り、タイプごとの付き合い方を学ぶことができた」「実践例等を参考に組織改革に挑みたい」といった声が寄せられた。



令和4年度 済生会地域包括ケア連携士養成研修会

2022年10月～11月

令和4年度済生会地域包括ケア連携士（連携士）養成研修会がeラーニングによる事前学習（10月3日～11月11日）、Zoomによるオンライン研修（11月15～16日）、2回に分けての対面研修（11月22日と29日）を組合せ開催された。

コロナ禍で集合研修が開催できなかった2年間に、全国の済生会における先駆的な実践等を取めた動画コンテンツや、それを補足するテキストを制作し今回の開催に至った。

eラーニングの動画コンテンツは5つのテーマからなり、講師となる済生会職員その他、多くの済生会を利用する患者や利用者、ご家族にもご協力いただき制作し、見ごたえのある動画コンテンツとなった。

連携士は済生会が進める地域包括ケアを中核となって進めていく役割を担っており、研修は高齢、障害、児童、生活困窮者など各分野における連携・支援や地域貢献、さらには、ICF（国際生活機能分類）や、職種間連携と多岐にわたる。

病院のMSWや看護師、福祉施設の相談員、訪問看護師など、様々な連携業務に携わる70人が参加した。

受講者からは、「eラーニングの内容が充実していて他の職員とも共有したい」「研修内容も濃く学びになった。済生会人として何ができるか考え行動したい」「これまで院内の活動ばかり考えていたが院外に出て地域と連携したいと思えた」といった意見が寄せられた。

全国で地域共生社会に向けた取り組みが進められる中、本研修は済生会内外から多くの注目を集め、今年度に追加制作している動画コンテンツとテキストは、コロナ禍での地域共生社会に資する人材育成に寄与するとして日本財団の補助対象になっている。



第48回 臨床研修指導医のためのワークショップ

2022年11月26日～27日

第48回全国済生会臨床研修指導医のためのワークショップが令和4年11月26～27日に大阪市のクロス・ウェーブ梅田で開かれ、15病院から27人が参加した。本年度2回目の対面開催となった。

開催責任者で長崎病院の衛藤正雄院長とチーフタスクフォースの風巻拓・横浜市東部病院救急科医長 スキルトレーニング室長が中心となって研修を進行、7人のタスクフォースが受講者をサポートした。事務局は開催担当の長崎病院と次回以降担当の水戸済生会総合病院と富田林病院、本部が務めた。

研修では、eラーニングによる事前学習から始まり、当日は主に臨床研修プログラムの立案、目標設定、研修方法（方略）、評価など指導医に求められる知識と技術をグループワークで学んだ。

受講者は「研修後のフィードバックやメンタルヘルスに気を配りたい」「研修医の考えを聞くことを重要視したい」「研修医指導 医療チームメンバーへの還元したい」と評価した。



令和4年度 初期研修医のための合同セミナー

2023年2月11日～12日

令和4年度初期研修医のための合同セミナーが令和5年2月11日～12日にパシフィコ横浜にて開催され、38病院から263名の初期研修医が参加した。

本セミナーは臨床研修指定病院で研修する1年目の全ての研修医を対象に、本会総会・学会に合わせて開催し、当該研修医が本会の規模を実感するとともに歴史、理念を学習し、もって本会への帰属意識を高揚させること、初期研修医が本会他病院の研修医や研修責任者等と交流を持つことにより、本会で初期研修を受ける自覚を促し、研修医本人にとって本会での初期研修が充実したものとなることを目的に開催される。

済生会学会・総会が新型コロナウイルスのため開催されなかったことから、3年ぶりの開催となった。

▶ 1日目

パシフィコ横浜ノース1階を会場に開催され、宇都宮病院 泉学 総合診療科主任診療科長が企画責任者を務められ同氏の進行により、松原了 済生会本部理事の挨拶の後、以下の講演・グループワーク・レジデント企画等が行われた。

- ・GW1 済生会での臨床実習指導と臨床研修の未来「学ぶ側から 教える側へ」
講師：済生会保健・医療・福祉総合研究所 担当顧問 船崎 俊一 先生
- ・レジデント企画「当院の初期臨床研修について」
(各病院からのプレゼンテーション)
- ・GW2「臨床実習を受け入れている病院でよりよい研修を行うためには」
講師：松阪総合病院 外科部長 近藤 昭信 先生

▶ 2日目

パシフィコ横浜ノースにおいて開催された済生会学会・総会に参加。

本会の規模を実感し歴史、理念等を学習した。



令和4年度 臨床研修管理担当者研修会

2023年2月11日

令和4年度臨床研修管理担当者研修会が令和5年2月11日にパシフィコ横浜にて開催され、35病院から35人が参加した。

本研修会は済生会での臨床研修プログラムをさらに魅力あるものにするために、本会の臨床研修の推進に関わる職員が本会施設の情報を共有するとともに、自院の臨床研修プログラムの質の向上を図ることを目的とし、済生会学会・総会に合わせ開催される。

新型コロナウイルスのため済生会学会・総会、初期研修医のための合同セミナーが開催されなかったことから、対面による研修は3年ぶりの開催となった。

宇都宮病院 泉学 総合診療科主任診療科長が企画責任者を務められ同氏の進行により、静岡県立総合病院 小西靖彦院長による講演「卒前・卒後の医学教育について」と、船崎俊一 済生会保健・医療・福祉総合研究所 担当顧問による講演「臨床実習後 OCCE と済生会の研修について及びアウトカム基盤型臨床実習と臨床研修にどう向き合うか」が行われ、最後に意見交換が行われた。

また、本研修の参加者は研修終了後に開催される初期研修医のための合同セミナーにて、GWのファシリテーターを担当した。



令和4年度 MSW・生活困窮者支援事業研修会

2023年3月3日

令和4年度 MSW・生活困窮者支援事業研修会が3月3日開かれ、MSW53人が参加した。

済生会呉病院の平田正彦氏、済生会習志野病院の村田智美氏が、各施設の無料低額診療事業、生活困窮者支援事業の実践状況を報告した。

そのあと、グループワークを行い、生活困窮者の見えにくい課題に対する実践の振り返りを行った。ファシリテーターは、実践報告をしていただいた平田氏・村田氏に加え、済生会滋賀県病院の川添芽衣子氏、福岡総合病院の宗像美緒氏、済生会本部の鈴木孝尚が担当した。

午後の講演では、炭谷茂理事長が「済生会における MSW 事業の理論と方法」と題して講演し、「済生会の MSW が日本の MSW をリードしてほしい」と強い期待を述べた。

2つ目の講演では、日本社会事業大学・小原眞知子教授が「倫理綱領から振り返るソーシャルワーカーの視点と役割」と題して講演。ソーシャルワーカーが担うべき役割や、倫理綱領の背景やグローバルな視点について、現場レベルに落とし込みながら学ぶことができた。

講演後の2回目のグループワークでは、倫理綱領や済生会の理念を踏まえた MSW の実践について話し合った。

参加者からは「倫理綱領は今まで何となくの理解でしかなかったが、初めて生きたものに感じられた」「済生会の MSW として何をすべきか、自分なりの考えを形作るのに非常に大事な研修だと実感した」などの感想があがった。



令和5年度 看護部長・副学校長研修

2023年4月20～21日

看護部長・副学校長研修を4月20～21日に4年ぶりに対面で開催した。

看護部長82人、副学校長7人が対面で参加し、WEB参加の訪問看護ステーション管理者、乳児院院長等も含め合計133人が出席した。

初日は、厚生労働省医政局看護課・習田由美子課長は「看護の動向」について看護職員の確保と資質向上、特定行為研修推進事業、助産師活用推進事業等の講演を行なった。

日本看護協会・福井トシ子会長は「これからの看護職に求められること」をテーマに、看護職能団体の位置づけ、これからの時代に看護職に望まれる役割・活躍等を訴えた。

グループワークでは、コロナ禍における施設の活動や課題などお互いの情報交換をした。

2日目は、初めての試みとして、全国済生会病院長会・園田孝志会長が「看護部長に望むこと」について全国の済生会病院長に実施したアンケート結果を紹介。「これからは院長とのコミュニケーションをより一層深めると同時に、経営意識を高め、職務にあたってほしい」と熱く語った。



令和5年度 訪問看護ステーション管理者研修

2023年5月11日

5月11日は訪問看護ステーションの管理者研修として、人事・労務管理をテーマにオンラインで開かれ79人が出席した。

在宅医療の労務管理に詳しい前田・鵜之沢法律事務所の弁護士・前田哲兵氏を講師に迎え、超過勤務などの人事管理について講義を実施した。また、ホームホスピス秋田訪問看護ステーション管理者の中村順子氏が訪問看護ステーションにおける基本的な看護サービスマネジメントを紹介した。

参加者は「経営管理として訪問看護ステーションの経営の具体的な手法を学び、自施設の振り返りにつながった」と話していた。



令和5年度

訪問看護ステーション管理者初級研修

訪問看護ステーション管理者アドバンス研修

2023年5月18日・7月7日

訪問看護ステーションの管理者のうち、対象者を限定した2種類の研修を5月18日と7月7日に開始した。

▶ 5月18日

この日は訪問看護ステーション管理者初級研修として、訪問看護ステーションの管理者で3年未満の職員を対象にオンラインで開催し、35人が受講しハラスメントや看護管理の基本を学んだ。参加者は「不安の軽減に役立った」などと語っていた。



▶ 7月7日

訪問看護ステーション管理者アドバンス研修として、訪問看護ステーションの管理者で3年以上の職員を対象にオンラインで開催し、28人が受講した。

参加者は「不安の軽減に役立った」などと語っていた。

令和5年度 看護部長臨床心理研修

2023年5月26日・6月9日

看護部長を対象にした初めての臨床心理研修を本部で2日間にわたり開催した。

5月26日は近畿・北信越・中四国ブロックから42人、6月9日は東北北海道・関東・九州ブロックから32人がそれぞれ対面型で参加した。

研修内容はコロナ禍での職員のメンタルケアや発達障害等の複雑な人的管理を実践している看護部長に対し、臨床心理学的に人事管理を読み解くもの。高輪心理臨床研究所主宰で茨城大学名誉教授などを務める岸良範氏が講師を務め、明確な答えがない問題や課題を解決していくための知識やスキルを習得する学問である「リベラルアーツ」を中心に事例を交えながら進化した。

参加者は「自己の考え方・捉え方を振り返り、『ひと』を活かす管理を実践ができるようにしたい」と話していた。



令和5年度 認知症ケア研修

2023年6月15日

認知症の疾患の理解と支援を、学びと実務に生かすことを目的とした認知症ケア研修を6月15日、4年ぶりにオンラインで開催した。

本研修は病院が認知症ケア加算を取得するための位置づけであったが、認知症発症者は、病院に限らず在宅看護や福祉分野でも関わりがあることから、今年度は幅広く受講者を募集。認知症の基礎講座をメインとした研修には、病院や訪問看護ステーション、居宅介護サービス事業所などから250人が参加した。

講師は〈神奈川〉横浜市東部病院の認知症専門の後藤淳副院長（脳神経センター神経内科部長）と丸山理恵老年看護専門看護師の2人。具体的な認知症の症状から日常的な支援のあり方などケアの現場で活用できる知識やスキルを学んだ。



令和5年度 エンドオブライフケア研修

2023年7月11日

エンドオブライフケア研修を7月11日にオンラインで初めて開催した。

終末期ケアに関心がある全ての職員を対象に募集し、看護師以外にも医師、薬剤師、介護士、事務職など多職種の516人が受講する大規模な研修となった。

終末期は患者さんやその家族が望む形になるよう、コロナ禍でも人と人が助け合い、支えあうことの大切さを再認識した。実施したアンケートでは「終末期ケアを身近なこととして考えることができた」などの前向きな意見が多く寄せられた。



令和5年度 副看護部長研修

2023年7月27日～28日

副看護部長研修を7月27～28日に対面とオンラインのハイブリッドで開催し、68人が参加した。

炭谷茂理事長が「看護に関する済生会原論」と題し、歴史の転換期における済生会の使命を訴えた。その他、ハラスメント対応やマネジメントについて学んだ。高田誠講師のリーダーシップとマネジメントスキルは昨年度に続き今回も実施。

参加者は、グループワークで積極的に発表を行ない、リーダーに求められる役割を共有した。



第 49 回 臨床研修指導医のためのワークショップ

2023 年 7 月 29 日～30 日

第 49 回全国済生会臨床研修指導医のためのワークショップが令和 5 年 7 月 29～30 日に千葉市のクロス・ウェーブ幕張で開かれ、13 病院から 20 人が参加した。

開催責任者で水戸済生会総合病院の生澤義輔院長とチーフタスクフォースの船崎俊一・済生会保健・医療・福祉総合研究所担当顧問が中心となって研修を進行、7 人のタスクフォースが受講者をサポートした。事務局は開催担当の水戸済生会総合病院と次回以降担当の富田林病院、本部が務めた。

研修では、e ラーニングによる事前学習から始まり、当日は主に臨床研修プログラムの立案、目標設定、研修方法（方略）、評価など指導医に求められる知識と技術をグループワークで学んだ。

受講者は「コーチング、one minute preceptor、研修医の評価に関して今回の WS の内容を活かしたい」「フィードバックの技法など取り入れていきたい」と評価した。



令和5年度 看護師長研修

2023年8月3日～4日

看護師長研修を8月3～4日に開催した。4年ぶりの開催となった本研修には対面64名、オンライン17名が参加した。

炭谷理事長からまずコロナ等における看護師たちの活躍に関してねぎらいの言葉を頂き、「看護に関する済生会原論 歴史の転換期での済生会の基本的方向」の講義をしていた。身近な取り組みが多く理解しやすい内容であった。

その後、市瀬講師より「組織活性化のためのポジティブ・マネジメント」の講義を頂き、師長として部署の中で「学習する組織」を具体的につくっていくプロセスを学んだ。

翌日は、高田誠講師より「やりがいを感じる目標管理」という内容で部署マネジメントをしていくためのエッセンスを学んだ。特に目標の設定は、ワクワクすることを盛り込み、スタッフとも共有することの重要性が理解できた研修であった。



令和5年度 済生会地域包括ケア連携士養成研修会

2023年9月～11月

令和5年度済生会地域包括ケア連携士（連携士）養成研修会が開催された。

昨年から取り入れているeラーニングによる動画コンテンツの事前学習（9月11日～11月5日）、オンライン研修（11月16日）、対面研修（11月21～22日）の3部構成で行われ、病院のMSWや看護師、福祉施設の相談員等81人が参加した。

事前学習の動画コンテンツは、昨年から6テーマ増え11テーマとなった。「ソーシャルインクルージョンの理念に基づくまちづくり」等を新たに加えた。講師となる済生会職員その他、多くの済生会を利用する患者や利用者、ご家族にもご協力いただき制作し、見ごたえのあるものに仕上がっている。補足のテキストブックは、全国の済生会施設での具体的な実践例や、支援の背景にある制度の説明、学習のポイントなどを掲載する事で、動画の視聴による学習を補完し、済生会ならではの支援の理解の深化に役立つ情報をまとめた。

追加の動画とテキストは、日本財団の補助金で作製した。

連携士は済生会が進める地域包括ケアを中核となって進めていく役割を担っており、研修は高齢、障害、児童、生活困窮者など各分野における連携・支援や地域貢献、さらには、ICF（国際生活機能分類）や職種間連携と多岐にわたる。

受講者からは、「動画やテキストは内容が充実していてわかりやすかった」「連携士として、必要な視点や考え方を学べたので支援対象者だけではなく職場内でも学んだことを生かせる取り組みをしていく必要があると感じた」「オンライン研修で良いのではと、対面研修に後ろ向きだったが実際参加すると対面だからできる情報交換や相手のニュアンスなどがわかり勉強になった」といった意見が寄せられた。

法人内部で行ってきた本研修は、昨今の地域共生社会の実現が求められる中、外部から多くの注目を集め、今後、法人外にも受講者の範囲を拡大する予定である。



令和5年度 新任看護師長研修

2023年9月21日～22日

新任看護師長を9月21日～22日、ハイブリッド式で開催し、対面63人、オンライン13人の計76人が出席、福祉施設や訪問看護ステーションの管理者の参加もあった。

炭谷茂理事長が「看護に関する済生会原論 歴史の転換期での済生会の基本的方向」と題して講義。コロナ対応など、看護師たちの活躍に労いの言葉をかけ、歴史的な転換期である今、最も済生会の活躍が願われる時代であることを訴えた。

水戸済生会総合病院・檜山千景看護部長は「新任看護師長の役割について」をテーマに「看護師長とは」「組織とは」「人材育成とは」という三つの課題を研修生と考えるワークを行なった。

2日目は高田誠講師が「リーダーシップと人材育成」について講義。管理者としてのマインドやリーダーシップの捉えなおしを行なった。

研修を終えて「ディスカッションの中で用いる言葉の曖昧さに気づき、看護師長としての行動を振り返りつつ具体的な改善点を見出すことができた」「施設を超えた意見交換や繋がりは新任看護師長にとって良い機会となった」などの意見が寄せられた。



令和5年度 訪問看護ステーション臨床心理研修

2023年10月6日

訪問看護ステーションの管理者・職員向けに臨床心理研修の1日コースを10月6日に初めてオンラインで開催した。

講師は、福島学院大学客員教授・茨城大学名誉教授で臨床心理士の岸良範教授。

参加者は、32名でひとつの訪問看護ステーションから複数参加しているところもあった。

研修のサブタイトルは「チーム間のメンタルヘルスを保ち、豊かに働くために」とし、メンタルヘルス、各ハラスメントについて事例をもとに心の状況を紐解いていく講義であった。

参加したステーションにおいて人間関係、利用者との関係など抱えている問題は、多いが今回の研修で問題解決に向けた考え方、メンタル不調の気づき方など、実践に活かせる内容が盛り込まれていた。特に受講者から「職務上の正当な関係」というところで「ハラスメントを受けていると二者関係（主従関係）に考えてしまっていたが三者関係（上司⇒憲法・労働法・就業規則⇒スタッフ）という関係で考えることが重要であることを知り、考え方を変えます」と答えていたことが印象的であった。



令和5年度 アドバンス・マネジメント研修Ⅳ

2023年11月16日～17日

次世代の看護管理者としてのマネジメントを習得するアドバンス・マネジメント研修Ⅳを11月16～17日に開催し、病院や訪問看護ステーション等の看護師78人が参加した。

1日目は炭谷茂理事長が済生会の歴史と使命、済生会に求められる役割などを語った。東京外国語大学の市瀬博基氏は「看護管理のためのコーチングとファシリテーション」と題し、コーチングの方法やタイミング、傾聴のポイントなどを解説した。

2日目は福島学院大学客員教授・茨城大学名誉教授の岸良範氏がメンタルヘルス・パワハラ・対話力を講義、「指導や管理は相手をひとりの人として尊敬、尊重することから始まる。一方的に伝える・動かす関係ではなく、『わかりあう』関係が大切」と訴えた。

受講生は「パワハラはあってはならないが、ハラスメント加害者への教育・支援の重要性についてもことを学ぶことができた」と話した。



第 50 回 臨床研修指導医のためのワークショップ

2023 年 11 月 18 日～19 日

第 50 回全国済生会臨床研修指導医のためのワークショップが令和 5 年 11 月 18～19 日に大阪市のクロス・ウェーブ梅田で開かれ、14 病院から 20 人が参加した。

富田林病院の宮崎俊一院長が開発責任者を務め、チーフタスクフォースの金原秀雄 福井県済生会病院・内科部長をはじめ、7 人のタスクフォースが中心となって研修を進行、受講者をサポートした。事務局は開催担当の富田林病院と次回以降担当の茨木病院、静岡済生会総合病院、本部が務めた。

研修では、e ラーニングによる事前学習から始まり、当日は主に臨床研修プログラムの立案、目標設定、研修方法（方略）、評価など指導医に求められる知識と技術をグループワークで学んだ。

受講者は「学んだことを実践で生かしたい」「指導するにあたり、伝える、教えるだけでなく信頼して任せ、引き出すという点も必要だと感じた」と評価した。

同ワークショップは平成 18 年（2006 年）に第 1 回を開催。これまでの修了者は 1,432 人に達した。



令和5年度 薬剤部（科・局）長研修会

2023年12月18日

令和5年度薬剤部（科・局）長研修会が令和5年12月8日、済生会本部大会議室にて開催された。

本研修会は済生会人材育成計画書に基づき済生会本部 事業基盤課・総研の主催で開催され、本会病院の薬剤部（科・局）長、またはこれに準ずる者75名（会場来会50名・WEB参加25名）が参加した。

研修は、済生会本部 松原了理事、及び全国済生会病院薬剤部長会 菅野浩会長（横浜市東部病院 薬剤部長）のご挨拶の後、株式会社 日本経営 橋本竜也代表取締役による講演「役職者の役割とリーダーシップの基本」と、全国済生会病院長会 島俊英 副会長（吹田病院 院長）による講演「薬剤部に期待すること」が行われ、最後に全体討議が行われた。

参加者からは、橋本氏の講演について、「役割と職務の違いを知ることができた」「リーダーとして薬剤部にて目的や意義を共有することの重要性を感じた」、

また、島院長の講演について、「他職種から薬剤部に何が期待されているかを知ることができた」「フォーミュラリーは今後の課題である」等の感想・意見が寄せられた。

